

# ともに生きる 共生

## こころの時代 ～宗教・人生～アーカイブス 長き戦いの地で

放送日：2020年2月9日 放送時間：60分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 道徳 学級活動 総合

### この番組の良さ



#### ● 医師 中村哲が語る大事なこと

アフガニスタンで40年近く医療援助や農農村復興のための井戸掘りに献身してきた医師の中村哲さんが、2019年12月に現地で銃撃され亡くなりました。

中村さんが、2001年のアメリカでの同時多発テロとアフガニスタン空爆開始直後に語った言葉には、私たちが考えなければならない大事なことがたくさんあります。

ソ連侵攻やその後の内戦ゲリラとして闘ってきた人々の深い心の傷、何があってもそこにとどまり続けることによって結ばれてきた、信頼による絆の意味を語ります。

#### ● 中村さんが大切にしている思い

中村さんは穏やかな口調で語ります。「アメリカ人が聞いても、日本人が聞いても、アラブ人が聞いても、何となく温かくなるような、納得できるような人間らしい感じというのは、やっぱり共通なものがあると思うんですね。それにやっぱり訴えるということが大事なような気がするんですね。」

人が持つ共通の暖かさを大切にしている中村さんの思いを、番組を通じて感じ取ることができます。

### 番組活用のポイント

#### ● 中村哲さんの生き方から考える

2019年12月、中村哲さんは「カカ・ムラド(ナカムラのおじさん)」と呼ばれ慕われました。彼は砂漠を緑に変えたお医者さんです。

1984年、中村さんは医師として、パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールへ赴任し、パキスタン・アフガニスタン地域で医療活動を始めました。2000年のアフガニスタンの大干ばつをきっかけに、水源を確保し人々を救うための井戸を掘り始めます。「病気は後で治せるからとにかく生きておきなさい」という状態だった。目の前の困っている人々を救うために、中村さんは自分のできることに取り組み続けます。

この番組後の2003年から亡くなるまで、住民のため、水路建設に力を注いだ中村さん。診療活動が井戸掘りへ、そして水路建設と変わっても、中村さんの大事にしている思いは変わりません。

日本の仲間の支援を受け、アフガニスタンの現地の人たちと協力しながら活動の先頭に立ち続ける中村さんの姿から信念が伝わります。

#### ● 道徳や総合的な学習の時間の教材として

中学校道徳科の授業で、「18国際理解、国際貢献」の項目として、本番組を活用することができます。また、「4希望と勇気、克己と強い意志」アフガニスタンの人々に寄り添い続け、援助活動を続ける中村さんの姿から、困難を乗り越えて物事をやり抜こうとする姿を学ぶことができます。

総合的な学習の時間では、戦乱の続くアフガニスタンの復興のために現地の人たちと一緒に共に尽力する中村さんの姿から、平和について考えることができます。

授業にあたり、次のサイトが参考になります。

#### ■ ペシャワール会

<http://www.peshawar-pms.com/index.html>

#### ■ 中村哲医師特別サイト「一隅を照らす」-西日本新聞

[https://specials.nishinippon.co.jp/tetsu\\_nakamura/](https://specials.nishinippon.co.jp/tetsu_nakamura/)



執筆者

安来市立広瀬中学校

教諭


瀬崎邦博

# 学習展開例

対象校種 小学校高学年 中学校 高校  
対象教科 道徳 学級活動 総合

## 強い信念を貫き通す生き方を知る

【授業時間 50分】 部分視聴

生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>発展途上国支援</p> <p>いろいろな支援の団体 青年海外協力隊、NGO(非政府組織)、NPO(非営利団体)、ODA(政府開発援助)等</p> <p>世界平和</p> <p>難しい感じ</p> <p>募金活動</p> <p>番組視聴(22分20秒~23分57秒・46分34秒~49分10秒)</p> <p>中村さんは穏やかでやさしそう</p> <p>難民キャンプでの診療は大変そう</p> <p>地元のひととてもなじんでいる</p> <p>18年も診療所を作る活動をしていてすごい</p> <p>アフガニスタンで30年以上活動し続けていたなんて、自分にはできない。</p> <p>どうして中村さんは、命を懸けてアフガニスタンで活動をやり続けたのだろうか？</p> <p>番組視聴(2分49秒~20分8秒)</p>  <p>医療活動を行っている時の気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな感染症に苦しむ人がいる。</li> <li>難民たちが戻る村に診療所を開こう。</li> </ul> <p>井戸掘り事業や食料の配布を始めたときの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病気は後で治せる。ともかく生きていなさい。</li> <li>困窮した人が難民になる前に救おう。</li> </ul> <p>仲間と一緒に活動する時の思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パキスタン側、アフガン側、日本側が三脚のように鼎になりうまくやっている。</li> <li>誰が考えても悪いことじゃないという100%納得できる1つのアクションがある。</li> <li>辛い戦いの記憶を希望に変える歩み。</li> </ul> <p>自分の目の前で困っている人をほっておけない。自分にできることをしたい。</p> <p>今いる場所で、自分ができることを一生懸命にやれば、まわりの人も明るい気持ちになる。</p> <p>自分たちにできる国際社会への貢献は、どんなことだろうか そのために大切なことは何か考え、全体で話し合う</p> <p>世界の仲間の命を支えたい、世界の平和に貢献したい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際貢献と聞いて、どんなことをイメージするか聞く。</li> <li>診療所を開設したり、地元で医療活動をしたりする中村さんの様子を見る。</li> <li>映像から感じたことを聞く。</li> <li>中村さんは、医者としてパキスタンに赴任し医療活動を行い、アフガニスタンで井戸や水路を作り続けたこと、2019年の12月に銃撃で亡くなったこと、アフガニスタンでとても高く評価されていたことを説明する。</li> <li>自分なら、命を懸けてまで活動を続けていこうと思うか尋ねる。</li> <li>視聴後、「医療活動を行っている時の気持ち」「井戸掘り事業や食料の配布を始めたときの気持ち」「仲間と一緒に活動する時の思い」の3つの視点から整理する。</li> <li>世界中で困っている人のために何ができるか問う。そのために必要な生き方を考え、タブレット端末等に記入する。</li> <li>意見交流する時間を設定し、自分の見方や考え方を広げる。</li> </ul> <p>【道徳的意欲と態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする態度を育てることができたか。(国際理解、国際貢献)</li> </ul>